

31

Manji stone Buddha

万治の石仏



笑っていたり泣いていたたり

- ◎ 不思議な懐かしさがある万治の石仏。その表情は見る位置により笑っているようにも、雨にぬれて涙するようにもとれる

DATA

Place _____

長野県
下諏訪町

Season _____

春・夏・秋・冬

Feeling _____

癒されたい

Theme _____

信仰

諏訪大社の杜に抱かれ

田んぼのなかにぽつんと佇む

自然石でつくられた大きな身体にちょこんと小さな仏顔が乗った万治の石仏。素朴で、それがかえって生き生きとして、一度見たら忘れることのできない異形の石仏だ。一説によると、諏訪藩の第三代藩主諏訪忠晴が、諏訪大社下社春宮に石の大鳥居を奉納しようとした時のこと。命を受けた石工がこの地にあった大きな石を用いようとノミを打ち入れたとき、その石から血が流れ、驚き恐れた石工たちは大鳥居の造作を中止。その夜、石工の夢枕に上原山（茅野市）によい石材があると告げられ、そこで良材を見つけることができ、大鳥居は完成。石工たちはこの不思議な石に阿弥陀如来を刻んで供養したという。胴石には万治3年（1660年）と刻まれているため、万治の石仏と名付けられた。高さ2m60cm、胴回り11m85cm。この大きな石が実際にどこから運ばれてきたのか、別の石でつくられた顔は後世に誰が加えたのか、石仏としては珍しい顔立ちなど、不思議な点が多い石仏でもある。

万治の石仏は諏訪大社下社春宮のすがすがしい緑の森の中にある。周囲を田んぼに囲まれ、正面を流れる砥川のせせらぎが心地いい。この地で350年以上、諏訪大社をやさしく見守る万治の石仏は、世の中を見据えているようでもある。